

# 高校生 ICT 2015 Conference

in 長野

言いたい！イマドキのネットのルール&マナー！！

～ 高校生のボクたちだから ～

## 開催報告書

第二回 2015年10月3日(土) 13:30-17:00

【会場】松本市駅前会館

主催

長野県教育委員会

高校生 ICT Conference 実行委員会

共催

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省

1. 開催概要 .....	1
2. 高校生 ICT Conference 2015 地域開催 .....	3
3. 高校生 ICT Conference 2015 in 長野（第二回） 開催概要 .....	4
4. 主担当 .....	12
5. 高校生 ICT Conference 2015 サミット .....	12
6. 高校生 ICT Conference 最終報告会 .....	12
7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応 .....	13

## 1. 開催概要

名称：	<p>高校生 ICT Conference 2015</p> <p>テーマ</p> <p>言いたい！イマドキのネットのルール&amp;マナー！！</p> <p>～ 高校生のボクたちだから ～</p> <p>第1部「大人のルール&amp;マナー」</p> <p>第2部「大人が作った子どものルール&amp;マナーを考える」</p>
主催：	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 高校生 ICT Conference 実行委員会</li> </ul> <p>(構成：安心ネットづくり促進協議会、大阪私学教育情報化研究会、一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構、一般財団法人草の根サイバーセキュリティ運動全国連絡会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 長野教育委員会 (長野のみ)</li> <li>● 福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会 (福岡のみ)</li> <li>● 特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム (神奈川のみ)</li> </ul>
共催：	内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省、大分県教育委員会、大分県高等学校 PTA 連合会、帝塚山大学 (奈良のみ)、神奈川県教育委員会 (神奈川のみ)
後援：	<p>一般社団法人全国高等学校 PTA 連合会、一般社団法人電気通信事業者協会、一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会、一般社団法人日本スマートフォンセキュリティ協会、特定非営利活動法人コンピュータエンターテインメントレーティング機構、独立行政法人情報処理推進機構、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所、全国高等学校情報教育研究会、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校 PTA 連合会、北海道青少年有害情報対策実行委員会、大阪府高等学校情報教育研究会、東京都高等学校情報教育研究会、奈良県、奈良県情報教育研究会、奈良県教育委員会、福岡県公立高等学校長協会、福岡県私学協会、福岡県公立高等学校 PTA 連合会、石川県、石川県教育委員会、石川県高等学校長協会、石川県高等学校 PTA 連合会、いしかわ青少年安心ネット環境推進連絡会、北陸携帯電話販売店協会</p>
協賛：	株式会社サイバーエージェント、グーグル株式会社、株式会社ディー・エヌ・エー、グリー株式会社、LINE 株式会社、株式会社ラック、株式会社メディア開発綜研
協力：	アルプス システム インテグレーション株式会社、株式会社内田洋行、株式会社 NTT ドコモ、KDDI 株式会社、ソフトバンク株式会社、一般社団法人情報教育研究所、デジタルアーツ株式会社、株式会社ミクシィ (順不同)
開催目的：	<p>高校生 ICT Conference は、2011 年度に「ICT プロジェクト 高校生熟議 in 大阪～ケータイ・インターネットの在り方&amp;活用法～」として大阪でスタートしました。2012 年度は、東京開催を加え計 17 校 79 人の高校生が参加し、2013 年度は、東京・大阪に加え、北海道、奈良、大分を新たに加えて 5 拠点にて開催し、計 51 校 267 人の高校生が参加しました。2014 度も同 5 拠点にて開催し、計 44 校 221 人の高校生が参加しました。</p> <p>高校生 ICT Conference の開催目的には、二つの側面があります。その一つは、教育的側面であり、初対面の人と話し合うという経験の中で、段階的に「考え、まとめ</p>

	<p>る、聞く、話す、見せる、伝える」などの技術を修練することです。第二に社会的に注目を浴びている携帯電話やインターネットをテーマとすることで、大人になる準備段階として、携帯電話やインターネットを安心して安全に使うために、高校生として情報モラルについて自ら深く考え、実践することで、将来のより良いインターネット利用環境の構築の一助とすることです。</p> <p>2015年度は、より全国的な規模での展開に向けて開催地域を拡大、新たに石川、長野、神奈川、福岡を加え開催します。</p> <p>さらに当事者たる高校生の意見を中央に届けるべく、各地域の代表者はサミットにより提言をまとめ、内閣府、総務省、文部科学省で発表を予定しています。</p> <p>※平成21年4月から施行された「青少年インターネット環境整備法」に基づき、青少年が安心・安全にインターネットを利用するための環境整備が始まった。民間の自主的・主体的取組が鋭意進められていると共に、行政に於いても施行状況の検討が進められている。一方、新学習指導要領が平成23年度の小学校を皮切りに、平成24年は中学校、平成25年度は高等学校で全面实施される。また、急速に普及を始めたスマートフォンや新しいICT（情報通信技術）サービスにおいて、青少年が健全にICTを利活用できるように育成するため、青少年への指導に加え、保護者や教職員への「情報モラル教育」の啓発活動が重要視されている。今年度は、スマートフォンの登場などにより急速に変化したインターネット利用環境下における諸問題について議論し、高校生が家庭や学校で取組むべき課題とともに、行政、事業者等への要望について本取組で提案し参考に資する。</p>
開催の概要：	<p>【各開催地での内容】※日程は、2. 地域開催の欄をご覧ください。</p> <p>・第一部 「大人のルール&amp;マナー」  (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議イントロダクション (4) 熟議 (5) グループ発表  (6) 講評</p> <p>・第二部 「大人が作った子どものルール&amp;マナーを考える」  (1) 挨拶 (2) 講演 (3) 熟議 (4) グループ発表 (4) 総評 (5) サミット参加者発表</p> <p>【サミット】「言いたい！イマドキのネットのルール&amp;マナー！！  ～ 高校生のボクたちだから ～」  (1) 挨拶 (2) アイスブレイク (3) 提言のための熟議 (4) 提言発表  (5) 講評 (6) 最終報告会参加者発表</p> <p>【最終報告会】  内閣府「青少年インターネット環境の整備等に関する検討会」  総務省、文部科学省、経済産業省にて成果・提言報告及び意見交換</p>
各開催地募集人員等：	<p>募集参加生徒 30名  募集見学者各回 30名（各開催地により変動あり）</p>
参加・参観方法：	<p>参加費・参観無料 [要事前登録]</p>

高校生 ICT Conference 2015 実行委 員会：	<b>【委員長】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>米田 謙三（大阪私学教育情報化研究会 副会長）</li> </ul> <b>【コアメンバー】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>齋藤 長行（青山学院大学 株式会社 KDDI 研究所）</li> <li>猪股 富美子（お茶の水女子大学 人間発達科学研究所）</li> <li>石田 幸枝（公益社団法人全国消費生活相談員協会 IT 研究会代表・消費者団体訴訟室長）</li> <li>植田 威（特定非営利活動法人 NPO 情報セキュリティフォーラム理事）</li> <li>小城 英子（聖心女子大学）</li> <li>他、関係者団体、事業者等</li> </ul> <b>【事務局】</b> 安心ネットづくり促進協議会 〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目 14 番 6 号 齋藤ビル 2 階 TEL: 03-3562-8850 FAX: 03-3562-1180
--	---

## 2. 高校生 ICT Conference 2015 地域開催

高校生 ICT Conference 地域開催では参加した高校生が 2 つのテーマに沿った議論を実施し、サミットへ行く代表者を選抜します。

	地域	第 1 回	第 2 回	会場
地域 開催	北海道	2015 年 9 月 27 日（日）	2015 年 10 月 18 日（日）	札幌ユビキタス協創広場 U-cala
	石川	2015 年 9 月 13 日（日）	—	金沢商工会議所
	長野	2015 年 9 月 5 日（土）	2015 年 10 月 3 日（土）	松本市駅前会館
	東京	2015 年 10 月 11 日（日）	—	東京ユビキタス協創広場 CANVAS
	神奈川	2015 年 10 月 4 日（日）	—	岩崎学園
	大阪	2015 年 7 月 25 日（土）	2015 年 9 月 20 日（日）	① 内田洋行 ②大阪私学会館
	奈良	2015 年 7 月 26 日（日）	—	帝塚山大学 東生駒キャンパス
	福岡	2015 年 9 月 12 日（土）	—	ガスホール
	大分	2015 年 8 月 29 日（土）	—	アイネス、大分県消費生活・男女共同参画プラザ
サミット		2015 年 11 月 3 日 13:30～17:00		東京ユビキタス協創広場 CANVAS
最終報告会		2015 年 12 月中旬頃		

### 3. 高校生 ICT Conference 2015 in 長野（第二回） 開催概要

概要	<p>高校生、教員、企業関係者など 50 名の参加者を得て、「大人が作った子どものルール&amp;マナーを考える」をテーマに高校生がグループに分かれて活発な議論と発表を行いました。</p> <p><b>【リアル熟議】</b> 主旨説明 長野県教育委員会 心の支援課 平林 洋一 様 高校生 ICT カンファレンスの意義や目的とあわせて本日の流れも紹介しました。</p> <p>開会の挨拶 長野県教育委員会事務局心の支援課 課長 原 良通 様 以下お話をいただきました。</p> <p>「前回は振り返ると、皆さんが熟議の可能性を感じたと思う。アンケートでは今後に生かせるという意見があった。皆さんがどんどん発信していきたい、生徒会で考えていきたい、周り話し合って発信していきたい、という思いを強く感じた。今日初めて参加する皆さんも一緒に熟議に入ってほしい。生徒の皆さんがそれぞれ学校に戻って今日の内容を伝え実践してほしい。」</p> <p>総務省 信越総合通信局 情報通信部電気通信事業課 課長 高萩 博之 様 以下お話をいただきました。</p> <p>「前回の開催ではファシリテーターで参加した。熟議は皆さんがしっかり話が出ることが大事でその目的は達成出来ている。</p> <p>今年総務省は通信自由化 30 周年の年。NTT 独占の時代から、安く早く便利に通信を使ってもらうために自由化された。いかに自由に使ってもらうか、上手に使うかが基本となる。今回初めて参加する人もうまく形として作り上げてほしい。前は勢いで議論していた面もあるが、今日は成果をお願いしたい。」</p> <p><b>第一部 事業者による講演</b> 「ネットは匿名か？」 株式会社ディー・エヌ・エー カスタマーサービス部 部長 西 雅彦 様 以下お話をいただきました。</p> <p>「当社はゲームだけでなく、様々、生活に密着したサービスを提供している。高校生としていかにネットの使い方をしていくかが将来に役立つ。これまで、ネットで炎上した場合、個人が特定され晒される危険がある。また、損害賠償の金額は、悪ふざけの範囲にとどまらない。ネットは匿名で使っていてもどこの誰かわかる。SNS 企業では、サイトパトロールを行っている。</p> <p>ソーシャルゲーム開発の裏側では、企画メンバーが自分たちで使ってみて開発に生かしている。必ずしも理系出身とは限らない。開発のキーワードは「スピード」である。</p> <p>高校生の皆さんは正しい知識を身につけて、安心安全にネットを楽しんでほしい。」</p>
----	--

各プレゼンの内容をしっかり参加生徒はメモをとりながら次の熟議に備えていました。各プレゼンの内容も 現在の問題点、今後の課題、これからの活用方法、企業の立場からの提案など いろいろなアイデアが盛り込まれていて教員にも大変有意義なものでした。

## 第二部：熟議「大人が作った子どものルール&マナーを考える」

まず最初に、第1回大会参加各校代表者より第1回大会の振り返りを行いました。

<明科高校>

全校生徒に伝えたい。ベネッセの取組みを参照したが難しかったので、歩きスマホと歩きイヤホンに取り組んだ。どう伝えるか、携帯会社の歩きスマホの動画からヒントを得て、動画を作っている。

<伊那北高校>

独自のルールブックを作りたい。現在存在するグレーゾーン、なぜそうなったのか生徒が納得して守れるルール。節度をもった携帯利用を目指したい。

<茅野高校>

茅野高校から改善していくことを企画。まずは茅野高校で1週間どうしていくかの期間を作っていこうと考えている。

<東御清翔高校>

前回の討議を通して、周囲の人のことや使い方をよく考えるようになった。

1年生の参加は私だけなので、生徒会に働きかけはできていないが、11月のPTA会合で携帯のルールやマナーをとりあげることになった。それに参加したい。

<松本県ヶ丘高校>

生徒同士の話し合いが出来た。生徒会から発信を考えている。学んだことをまとめて活動していきたい。

その後グループ分けして5つのグループに分かれ、熟議を進めました。

## 第三部：グループ発表

各グループ3分程度の発表を行い、それぞれの発表に対して質疑を行いました。

<Aグループ・つまんないかも>

授業中のケータイのこと、ネットのことを議論した。生徒の現状や先生の現状を話し合った。

今の授業に、先生がタブレットを使ってほしいという要望がグループ内から出た。

ネットを授業で使ってほしい。理由は、教科書よりも映像のほうが分かりやすいし、

興味をもてる。

先生方が授業にネットを使って組み込んでくれれば、生徒で寝る人も減るのではないかと考えた。それでも授業中にケータイを使っちゃう生徒は自己責任ではないか。

先生にネットを授業で活用してほしいのは、某高校の地理の先生の話があり、その先生はPCとプロジェクターでその場で検索して、用語の画像を投影したり解説をしてくれる。みんな興味をもって、飽きずに集中出来るモデル授業。それを他の先生も取り入れてほしい。

まとめをどうやって県内に広めるか、自分たちの高校で試してみたらためて改善し続けて、最後に広めていければいいと考える。授業でネットを使うのは可能性がある。

(Q)

ネットやタブレットを授業で使うのはいいことと思うが、どういう課題があってそれを使う話になったのか？

(A)

授業が黒板にかいて読む、その授業では関心がいかない。授業に興味を持つためには、どうするか、生徒のスマホを使うのは他のことに使いそうで実現が難しい。先生に授業を面白くしてもらえれば、授業中にスマホをしていた生徒も興味をもつのではないかと考えた。

< Bグループ・おちゃめ高校生生徒会 >

大人に賛成できる意見として、自己管理能力がない人にはケータイを持たせない。他人の悪口は言わないなど必要最低限のことが出た。

大人たちの使い方どうなのか、スマホの便利さに気付いてほしい。良い面、悪い面のある使用時間、高校での使い方も議論した。

メリットは、犯罪の防止や他人の中傷防止が出来る。デメリットは、勉強で使いたいのにリビングでは使えないなど。

(ここからは小芝居で・PTA総会にて)

大人が決めたルールは反発する。生徒がルールをきめる。高校生は自己管理ができるので大人や先生がルールを決めるのは腹が立つ。PTA総会に子供から親に講習会で説明をする。

生徒たちはしっかり使えるようになった。

(Q)

生徒自らルールを決めるとき、まとめるときに難しいことは？

(A)

生徒のいろんな意見を聞いて纏めることが中心となる。全校アンケートを生徒会でまとめる。全員の意見をとることが必要だがそれが難しい。

<Dグループ・まじめーず>

真面目なメンバーが集まって熟議が進んだ。

結論として、生徒会交流会を設けて、学校でのスマホの使用のルール、マナーを持ち寄り対策を発表する。各校の具体例として、今のスマホのマナーを常識化すること。そのために、先生からルールを強制されるのではなく、生徒が自主的に働きかけることが大事。

スマホの利用時間のアンケートをとり学力との関係とグラフ化、目に見えるかたちで提示することで、自覚や自主性が身に付く。

議論として、既存のルール、マナーを話し合った。授業中のスマホの禁止、授業に集中できない。学校側からアンケートをとる、使用状況、頻度を学校側が把握する。ながらスマホは危険。自転車に乗りながらイヤホンをするのは安全上危ない。

対応策として、

- ・自主的にスマホの電源を切る
- ・生徒会から呼びかけをする、意識づけ
- ・生徒同士で話し合う機会をもうける
- ・出た意見を先生、保護者から意見をもとめる
- ・身近な問題として認識させる、
- ・グラフなど目に見えるかたちにする

結論に戻り、しっかり出来るメンバーばかりではないので、各学校で生徒会からみんなの意識を変えられたらと思った。クラス対抗で、使用時間の少ない発表など、クラスで意識がかわるのではないか、企業の方には、スマホ時間を一目でわかるメールを送ってもらい、目で見てわかるようにしてほしい。

今日の機会を通して感じたのは、各校が集まる場をもうければ、他にも学校活動の意見交換にもなって、一石二鳥と考える。

(Q)

授業中のスマホの使い方、自主的にスマホの電源を切る、コントロールする、何が一番ポイントか？

(A)

高校生は小学校の頃から教育をうけて、ルールではなく、常識としてとらえる。そのために

自分の学力、時間をグラフにする。状況をみて自主的に考える。目に見えたほうがいい。

<Cグループ・おうちOUT I>

大人のルール、マナーには納得していない部分もあるが、ルールのおかげでいいこともあった。授業中の没収、使用時間の制限、学力を考えると制限があったほうがいい。

セキュリティでは、メールは自分で迷惑メールを登録できる機能などを活用していくのが大事。

悪い面では、システムで解決できないことはある。うまく使えばよいが、機能だ

けで解決できないこともある。使用制限の甘さでは、個人の権限としてゆるく見るのはルールの意味がない。

大人は子供に個人情報を出すなというが、大人も出している。説得力が欠けるのではないか。

高校生が自ら考えるルール&マナーでは、学校では預けた状態で昼休み以外は使わない。

教室内の使用禁止などが上がった。マナーでは、学ぶ姿勢を考慮すること、友だちの前では使用を控えること、家庭では自分で時間を決めることが出た。

ルールをどのように実行、発信していくかでは、生徒会役員が交流会や高校生合宿などで、役員で話し合う場をより多く設ける。自分たちの発信ができて、周りの高校のルールを知ることも出来る。

どうやって広めたらいいかについては、紙では捨てられる。動画で伝えれば頭に残り、ただのルールではなく話題性をもって広めるのが良いと考えた。

3年間しかない高校生活をスマホでうめるのはもったいない。もっと大切なものは多くある。

ルールで強制されなくても、気づいてくれれば必然と減る。このような場が出た案を県内で実行して、高校生活での利用を考えていきたい。

(Q)

広め方のところで、紙ではなく動画はよいアイデアだが、どのような動画でどう伝えたいのか？

(A)

明科高校では身近な歩きスマホなどを動画でとって、学校で見せているが、他校でも交流して広めていきたい。いまは校内向けだが、より力のある組織、政府や企業が、見ていておもしろい動画をユーチューブなどに流してもらえれば話題性が出る。ルールを広められる。

<Eグループ・E-girls>

2つに絞った。

それ以外の企業の話では、例えば通信量で1日の通信量を決めてもらうとか、アプリのダウンロードでは、親の承認が必要とか、企業側にやってほしい。

極論だが、成人までキッズケータイしか持たないようにするアイデアも出た。

ルールとマナーでは「時間制限を作ること」。親や学校を通して、ケータイの時間を制限すると必然的にできなくなり、マナーもよくなると考える。

もっと友達と話をすること、近くにいるのに顔を見ない人、ラインをする人、もっと「目を見て友だちと話を深める」リアルに話をするのがよい。

普及させる方法として、時間制限は、校則に近いものにする。親に協力してもらい、PTAで提案してもらう。親の意識も高まる、勉強にも手が回らない人も改善させたい。

目を見てコミュニケーションをとることの普及方法は、キャンペーンでポスターを

作る。県でポスターを集めて、公共の施設に貼る。学校単位、クラス単位で協力、結束も高まり一石二鳥。ぜひケータイから離れて、みんなと話をしたり、楽しいことを進めていければよい。

(Q)

制限を設けることをたくさん言ったが、皆さん本人は納得できるのか？納得できない人にどう説得するのか？

(A)

個人的には制限に納得できるが、そうでない人には、家族のだんらんで家族と一緒にいる時間を長くする、友達と遊ぶ時間を大切にする、人と直接かかわることで必然的に時間が制限されるのではないかと考える。

**全体講評 NPO 法人ぐんま子どもセーフネット活動委員会 理事長 飯塚 秀伯様**

以下コメントをいただきました。

「とても白熱した議論を聞いていて心強い。一人一人がしっかり考えていることがよくわかった。

今回のテーマの「ルール」、なぜその議論が必要なのか。親側からみたルールは何かを話させていただくと、それは親が大切にしているものがある。家庭の環境を大切にしている。皆さんから学校のことを聞きたい、一緒にTVを見て盛り上がること、大切にしていることがある。そこにスマホが入る、親は怖い。今まで大切にしていたものが壊れたらどうしよう。怖ければ怖いほどすごく大切にしたいものを守りたい。ルールを作る。

ある親がスマホを与えたら家の環境が壊れたという。大切にしていたものがスマホですべてが台無しになった。親の考え、立場を頭の片隅に入れると親や先生の言うことが理解できる。

今回の熟議では、スマホは悪いのかいいのか、一人一人の意見を述べることで皆さんの頭が整理された。始まる前よりも今の方がクリアになった。決意が芽生えた。一人一人がゆっくりと話す最大のメリットはここにある。自分が言いたいことは普段なかなか言えないが、自分の考えを遮られることはなく有効ですごく白熱した議論になった。

さまざまなチーム発表からキーワードが見えた。

「自主性」上から言われたのではダメ。

「生徒同士」集まりが有効ではないか。

「時間制限」「対面の大切さ」これではまずい、だめだ、一人一人が考えていた。困っていた、悩んでいたことをうっぷんを晴らす人もいた。

「可視化」、データ、アンケート結果、成績と利用時間の相関関係、動画、時間制限、アプリの利用など、高校生の提言は心強かった。企業に対する考えも意義があった。

ルールから常識への視点はおもしろい。いままで与えられたルールでしかなかったものが自然と「常識」となること。小学校、中学校、高校生、これが常識となるともっとうまく使える。そのためにどう過ごしたらいいかは次の課題になる。

	<p>それから、親の態度の話は重要で、こんな話があった。</p> <p>左手にフライパン、右手にケータイのお母さんに子供が相談にきた。次の日にお母さんはその相談を覚えていなかった。その子は涙ながら訴えてきた、親の姿勢も考えなければならない。PTAセミナーなどでも伝えなければならない。</p> <p>皆さんがこの熟議をどう伝えるか、各グループで考えていたが、2年くらいで代わってしまうある行政の人がこんなことを言っていた。「仕事の内容は伝えることはできるが、情熱や哲学は伝えられない。」仕事内容は機械的に伝えられるが、大切なのは伝えるときに、「情熱」まで伝える仕組みづくりを考えていくこと。1年生と2年生をこの場に呼んでおく方法もある。伝えただけでは来年までに終わってしまう。白熱した議論を心にしまい込んだ人がつなぐサイクルにする仕組みづくりを考えるとよいのではないか。</p> <p>皆さんは精神力や集中力という言葉は好きだし、大切なものとする。それをわかりやすく言うと、自分の心をコントロールすることと言い換えられる。自分の心をうまくコントロールするためには静寂が必要。</p> <p>孤独な時間が集中力を生む。孤独になりたい時間に、メールやLINEに振り回されないような周りとの関係性、家族同士、学校同士、長野県の高校生同士がルール作りをしていく。</p> <p>今日は皆さんに元気をもらった気がします。ありがとう。」</p>
参加校：	<p>長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県茅野高等学校、長野県伊那北高等学校  長野県東御清翔高等学校、長野県明科高等学校、長野県上田高等学校、長野県豊科高校</p>
日 時：	2015年10月3日(土) 13:30-17:00
場 所：	<p>松本市駅前会館  松本市深志2丁目3番21号</p>
参加人数：	<p>熟議参加生徒 25人  見学者・関係者 25人(教員・教育関係者・その他)  合計：50人</p>
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。(敬称略)</p> <p>&lt;Aグループ・つまんないかも&gt;人数5人</p> <p>伊那北高校 2年 女子  茅野高校校 3年 男子  豊科高校 2年 男子  松本県ヶ丘高校 2年 男子  松本県ヶ丘高校 2年 女子  〔ファシリテーター〕  召田 誠 (長野県明科高等学校教諭)</p> <p>&lt;Bグループ・おちゃめ高校生徒会&gt;人数5人</p> <p>明科高校 3年 男子</p>

伊那北高校 2年 男子  
上田高校 2年 男子  
豊科高校 2年 女子  
松本県ヶ丘高校 2年 女子  
〔ファシリテーター〕  
村山 美耶子 (長野県篠ノ井高校犀峽校教諭)

<Cグループ・おうちOUT I>人数5人

明科高校 3年 男子  
伊那北高校 2年 女子  
上田高校 2年 女子  
茅野高校 3年 男子  
松本県ヶ丘高校 2年 女子  
〔ファシリテーター〕  
本田 真 (長野県茅野高校教諭)

<Dグループ・まじめーず>人数5人

明科高校 3年 男子  
伊那北高校 2年 女子  
上田高校 2年 女子  
松本県ヶ丘高校 2年 女子  
松本県ヶ丘高校 2年 男子  
〔ファシリテーター〕  
西 雅彦 (株式会社ディー・エヌ・エー)  
郷原 玲 (長野県松本美須ヶ丘高校教諭)

<Eグループ・E-girls>人数5人

明科高校 3年 女子  
東御清翔高校 1年 女子  
豊科高校 2年 女子  
松本県ヶ丘高校 2年 女子  
松本県ヶ丘高校 2年 女子  
〔ファシリテーター〕  
中村 広毅 (株式会社サイバーエージェント)

#### 4. 主担当

長野教育委員会	中沢、平林 他	司会、ファシリテーター手配、庶務、受付 記録（撮影）
安心ネットづくり促進協議会	白戸 他	事務局、庶務
ソフトバンク株式会社	石原、	事務局、庶務
草の根サイバーセキュリティ運動 全国連絡会	工藤	庶務、受付
各地協力団体、事業者、大学等		講演、ノベルティ、ファシリテーター、記録（撮 影）、 他

（開催後の予定）

#### 5. 高校生 ICT Conference 2015 サミット

高校生 ICT Conference 2015 サミットは、各地で開催された Conference の成果を高校生の代表として提言をまとめるための場です。その代表者の選考は以下の手順によります。

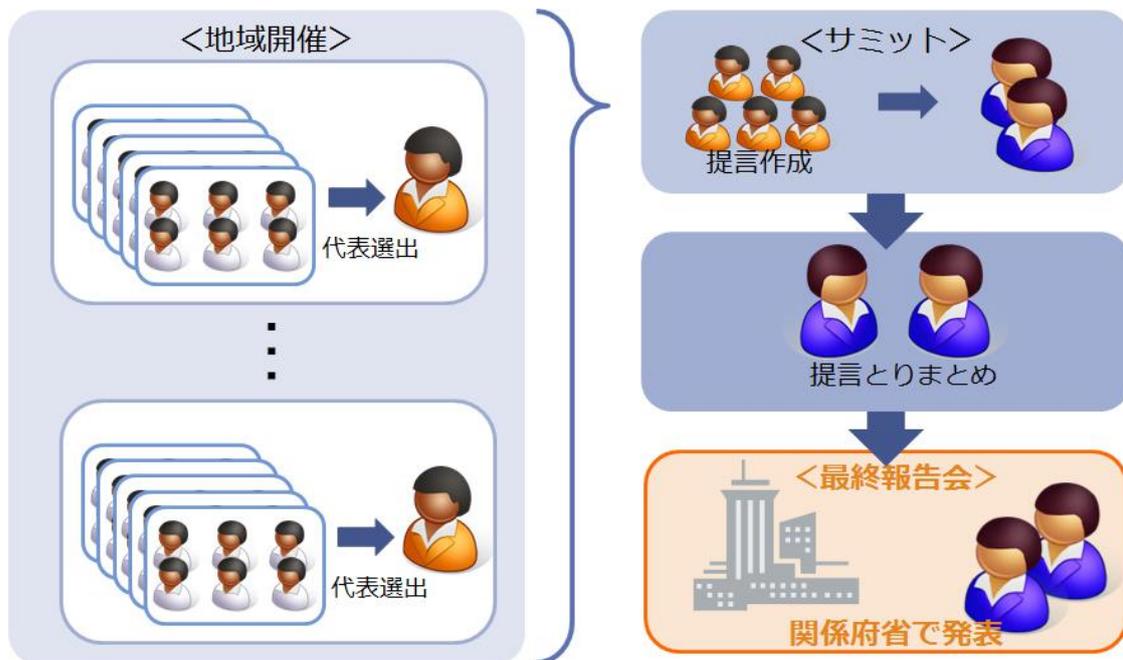
- 1) 参加が決まった場合、参加生徒を決めていただき、事前に登録をする
- 2) 終了後、各校の引率教職員と参加校代表生徒の投票を基に代表を選出
- 3) 各地の代表者でサミット開催
- 4) サミット終了後、最終報告会で発表する代表 2 名を上記手順と同様に選出
- 5) 最終報告会代表者が、サミットの内容を提言にまとめ、最終報告会で提言発表を行う

#### 6. 高校生 ICT Conference 最終報告会

高校生 ICT Conference 2015 サミットで検討された提言を、選出された代表者 2 名が報告用にとりまとめを行い、関係府省にて報告を行うとともに、関係府省担当者との意見交換によりコミュニケーションを語る。

【報告先予定府省】

内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省



## 7. 高校生 ICT Conference の成果物と終了後の対応

- 1) グループ発表の画面の撮影（又は画像保存）
- 2) Conference 終了後、発表の画像と併せて高校生 ICT Conference 2015 のサイトにアップデート
- 3) 終了後、講評と併せて、各会場責任者にて取りまとめ
- 4) 高校生 ICT Conference 2015 サミット終了後、実行委員会にて取りまとめ
- 5) 高校生 ICT Conference 2015 サミット代表者による最終報告会用資料の作成
- 6) 最終報告会での発表